



AGC 株式会社

IR DAY 2024 <DAY 2> 電子

2024 年 6 月 4 日

イベント概要

[企業名] AGC 株式会社

[企業 ID] 5201

[イベント言語] JPN

[イベント種類] アナリスト説明会

[イベント名] IR DAY 2024 <DAY 2>

[日程] 2024 年 6 月 4 日

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 2 名

常務執行役員 電子カンパニー プレジデント

鈴木 伸幸 (以下、鈴木)

広報・IR 部長

小川 知香子 (以下、小川)

登壇

小川：定刻となりましたので、電子事業の事業戦略に関して、電子カンパニープレジデントの鈴木より説明させていただきます。鈴木さん、よろしくお願いいたします。

目次

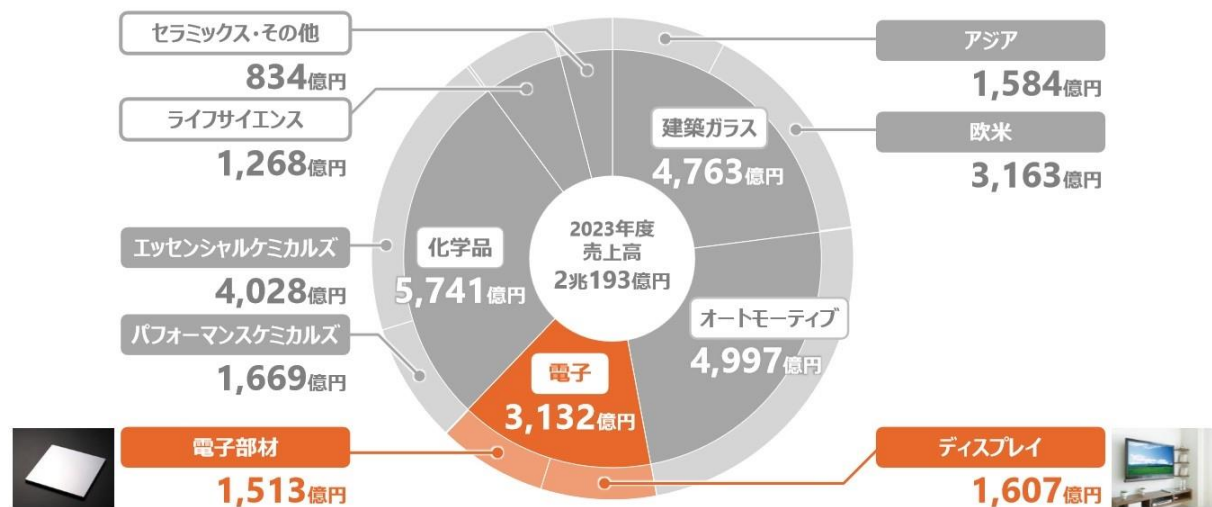


1. 電子事業概要	P.3
2. ディスプレイにおける課題・戦略について	P.8
3. 電子部材における事業戦略について	P.11
4. 目標	P.20

鈴木：皆さん、こんにちは。続きまして、電子事業についてご説明申し上げます。

こちらが今日の内容になります。こちらに沿って説明をいたします。

AGCグループにおける位置づけ



※各セグメントの売上高はセグメント間売上高の消去前の数字であるため、セグメント売上高の合計は全社売上高とは一致しません。また、サブセグメント売上高は、外部顧客に対する売上高を使用しています。

©AGC Inc.

4

まずは、電子事業の概況です。

電子事業の昨年の売上は、3,132 億円でした。AGC グループ全体売上の 16%を占めます。電子事業にはディスプレイと電子部材のセグメントがあり、昨年は若干ディスプレイセグメントの売上が多い状況でした。

電子カンパニーの業績推移

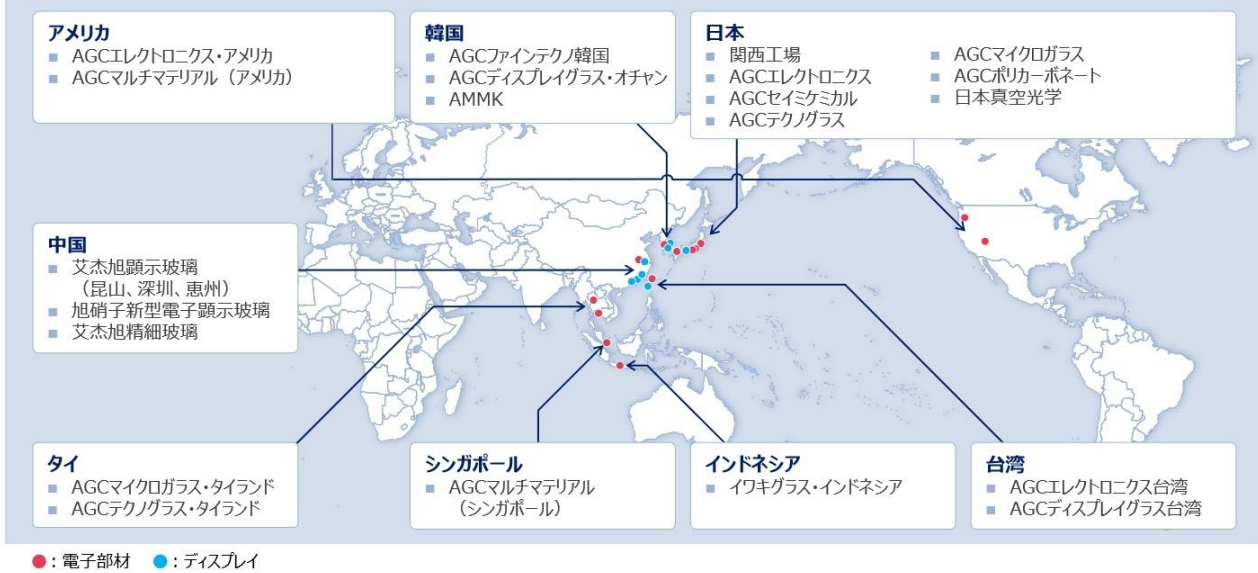
- 電子部材は順調に拡大
- ディスプレイはコロナ期の巣ごもり需要の反動による影響で苦戦



こちらのグラフは、電子カンパニーの業績の推移になります。過去の売上高をセグメント別に表しています。折れ線グラフが営業利益になります。

ここ数年、電子部材、この濃いオレンジの部分ですが、順調に事業を拡大しております。一方でディスプレイは、ここ2年は新型コロナ危機の巣ごもり需要の反動で苦戦が続きました。ディスプレイ事業が損失を出したことで2022年は大きく利益を落としましたが、昨年はやや改善をいたしました。

主要製造拠点



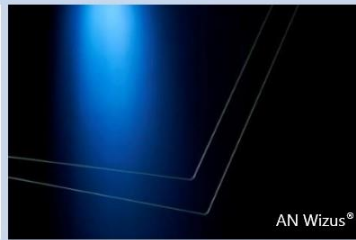
こちらが、電子カンパニーの主要製造拠点になります。

TFT 用ガラスのディスプレイ用ガラスの拠点は、中国、台湾、韓国と日本ですが、電子部材の拠点は、それに加えてアメリカやタイ、そして日本にも多くの拠点が、グローバルに展開をしています。

電子部材の主要製品は、オプトエレクトロニクスはタイと日本がメインです。また、ブラックスは日本で製造しています。CMP スラリーも日本がメインですが、アメリカ等に展開をしています。

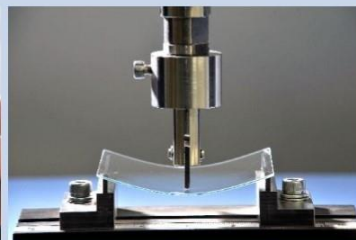
主要製品：ディスプレイ

TFT液晶/
有機EL用
ガラス基板



AN100、
AN WIZUS®、
AN Rezosta®

化学強化用
特殊ガラス



Dragontrail®
シリーズ、
AS2

これより、ディスプレイの課題と戦略の説明に移ります。

ディスプレイセグメントには、ディスプレイ用 TFT や有機 EL 用ガラス基板とスマホのカバーガラスなどに使われる化学強化用特殊ガラスが含まれます。

- コロナ期の巣ごもり需要の反動による影響で売上が低迷。加えて、原燃材料価格の上昇、円安の進行等により、収益性が悪化し、2022年度には700億円強の減損損失を計上
- 収益改善策を今中期経営計画期間中に確実に遂行することで、安定的にキャッシュを創出し、ROCE 10%達成を目指す

収益改善策の柱

価格政策の
見直し

技術革新による
競争力強化

大型パネル用
ガラス基板への
集中に向け
事業構造改革を推進

ディスプレイ事業の課題と戦略です。

課題は明確で、収益の改善、資産利用効率を上げることです。2022年から2023年は、コロナ期の巣ごもり需要の反動による販売減と原材料等の価格の上昇、および円安の影響で収益が悪化いたしました。

収益改善の柱として、ここにある三つの内容に取り組んでいます。価格政策の見直し、技術革新による競争力の強化、大型パネル用ガラス基板への集中に向けた構造改革の三つです。次ページ以降で、詳しく説明をいたします。

価格政策の見直し

- 原燃材料高・アジア通貨高により
長期的に継続している
大幅な生産コストの上昇分

**昨年価格の見直しを実施
引き続き、お客様へ要請していく**

技術革新による競争力強化

- 競争力のある新製品「AN Rezosta」の
量産化や燃焼効率の高い設備の展開
- 技術開発は既に完了しており、年初から
順次展開中
- 今年から段階的に
収益に貢献する
見通し



まずは、価格と技術革新についてです。

価格につきましては、原燃材料の高騰と為替による大幅な生産コストの上昇に対しまして、昨年値上げを実施いたしました。今期も引き続き、お客様への要請を続けております。

一方、技術革新につきましては、競争力のある新製品の上市、およびこれまで以上に燃焼効率が高い設備の展開による競争力の強化を目指しております。

大型パネル用ガラス基板への集中に向け事業構造改革を推進

実施済

- 低収益サイズからの一部撤退
- 高砂事業所の液晶用ガラス基板製造ラインの稼働を停止

進捗

**生産能力の更なる適正化を迅速に進め、
24年度末までに22年比2割程度の削減を目指す**

今後も事業環境を注視し、追加施策を継続検討

収益改善策を
加速させる

**構造改革
プロジェクト**

CFOをトップとする
プロジェクト体制で、
従来の収益改善策を
よりスピード感を持って
着実に遂行

* 22年比

©AGC Inc.

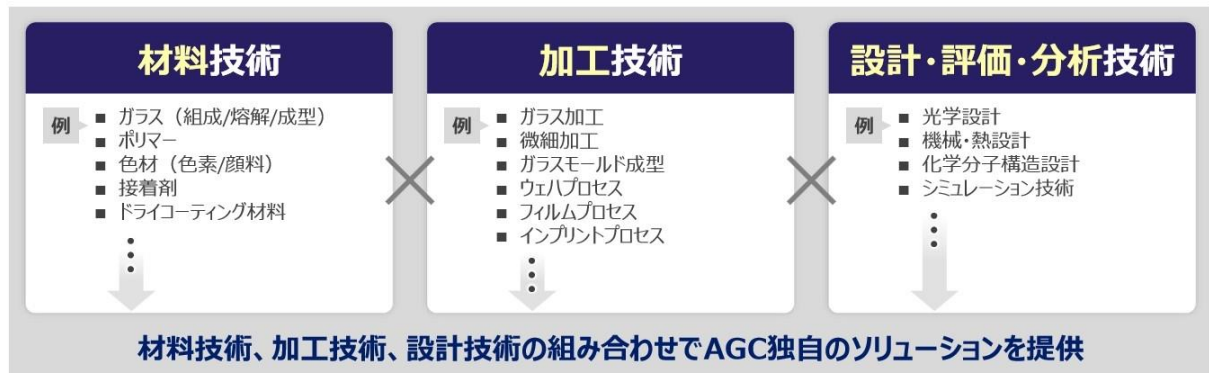
12

大型パネル基板への集中に向けた事業構造改革につきましては、従来収益改善施策を進めてきましたが、本年2月に発表したとおり、ディスプレイの事業構造改革を加速するために、CFOをトップとするプロジェクトを発足させています。

既に中小型の低収益サイズからの一部撤退と、高砂事業所の液晶用ディスプレイガラス基板の製造ラインの稼働を停止していますが、今年末までに生産能力を2022年比で2割程度削減することになりました。

今後も、事業環境を注視してスピード感を持って構造改革を実行し、今中計期間中にディスプレイ事業のROCE10%達成を目指しています。

ガラス、化学、セラミックスの“有機材料＋無機材料”で培った3つの技術



半導体・オプトエレクトロニクス業界の発展に貢献

続きまして、電子部材の事業戦略について説明をいたします。

AGCの電子部材の強みは有機と無機の材料を持つこと、また素材と加工、そして優れた設計・評価・分析、これらの技術を持ち、これを組み合わせることで独自のユニークなソリューションを提供できることです。

例えばブラックスは、素材である合成石英、それから精密なコーティング加工、膜の設計能力や優れた解析、これらを持つことで製品化ができました。半導体用のスラリーも材料から製造しておりまして、有機と無機の両方を持っていることで優位性を保っていると考えています。

また、今後成長が期待される半導体パッケージ基板のガラスコアにつきましても、このような強みが活かされる製品だと思っております。

半導体関連部材

EUVブランクス

最先端露光に対応した高品質な
フォトマスクブランクス



CMPスラリー

セリアスラリー市場における
トップメーカーの一つ



合成石英ガラス



銅張積層板 (Copper Clad Laminate)



SiC熱処理治具



光学関連部材

赤外線 カットフィルター

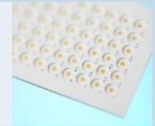
高性能赤外線吸収ガラスフィルターの
業界をリード



DOE (回折光学素子) Diffuser (拡散板)



ガラス セラミックス基板



高屈折率 ガラス基板



非球面ガラス モールドレンズ



主要製品の説明です。

半導体関連部材では、EUV マスクブランクス、CMP スラリーのほか、半導体露光装置用で高いシェアを持ちます合成石英、それから回路基板用に使われる銅張積層板等を扱っています。

光学関連部材では、主力製品のカメラの色補正に使われます赤外線カットフィルターのほか、センサーなどに使われます DOE や Diffuser、それから AR、VR 用に期待される高屈折率ガラス、カメラに使われる非球面レンズなどを扱っています。

半導体関連部材：EUVマスクブランクス



強み

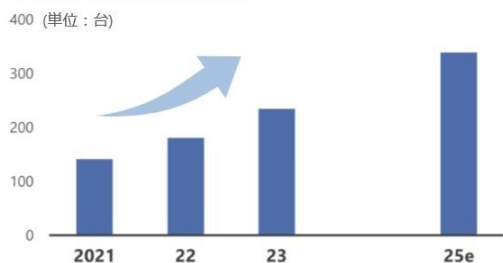
- 硝材から研磨・成膜まで一貫生産する“世界で唯一”のブランクスメーカー
- お客様要望に対する柔軟な対応力、お客様への技術提案力・サポート力



戦略

- 市場成長に合わせ、今後も積極投資を継続
- 高い技術力を武器に、次世代向けでも優位性を確保

EUV露光装置出荷台数*



* 出典：ASML社資料をもとに作成、累積

EUVマスクブランクの売上高



©AGC Inc.

17

個別の製品ということで、まずは EUV マスク用ブランクスについての状況を説明いたします。

当社は、素材から一貫生産をする世界で唯一の EUV マスクブランクス用のメーカーです。全てのプロセスにつきまして、お客様の要望に対する対応力、提案力が強みになっています。今後も積極的な投資を進めまして、需要に対応するとともに次世代向けにも高い技術を活かして優位性を確保していきます。

EUV マスクブランクス用の市場は、露光機の台数と相関がありますが、露光機の出荷が今堅調で、半導体の集積度が上がれば EUV 露光のレイヤーも増加することから、今後も市場は成長すると見込んでいます。また売上につきましては、もともとは 2025 年に 400 億円以上売り上げることを見込んでいましたが、1 年前倒しで達成する可能性が出てきました。

半導体関連部材：CMPスラリー



強み

- 原料砥粒からスラリーまで一貫生産できる技術開発力
- お客様のデザインルール、プロセスに対応した“高品質のスラリー”+“ソリューション”を提供

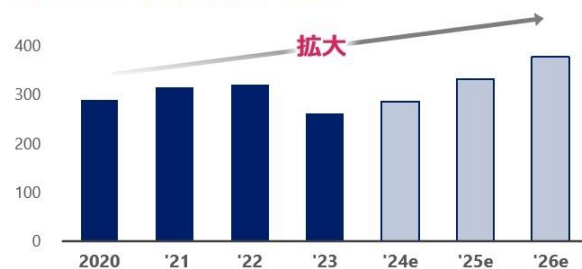


戦略

- セリアスラリーでのリーディングポジションを維持
- 新たな用途（3D実装等）への拡販

事業環境 セリアスラリー市場

(百万USD)



半導体製造プロセスにおけるCMPスラリーの使用シーン



次は、CMP スラリーにつきましてご説明いたします。

CMP スラリーにつきましては、原料の砥粒からスラリー化までを一貫で生産できること、また高品質が非常に評価されておりまして、お客様とのパートナーシップによるソリューション提供力が評価されています。

スラリーは半導体工程として使われますので、半導体の稼働率、市場に影響を受けますが、当社の製品は次世代半導体にも多く使われていることから、CMP スラリー全体の市場の伸びを上回る成長を目指しています。



強み

- ガラス、成膜の組み合わせと光学設計技術により高難易度の分光特性を実現し、カメラの高画質化に貢献



戦略

- 高い技術力を武器に有力なお客様と強固なパートナーシップを構築する
- モバイルカメラユニットの高機能が進むことから、更なる高付加価値化を目指す

イメージセンサーの感度を人間の視感度に合わせるためのガラスフィルター

CMOS /
CCDセンサー用
赤外線カット
フィルター



CMOS /
CCD
センサー

製品使用例



スマートフォン用カメラ



一眼カメラ



車載用カメラ

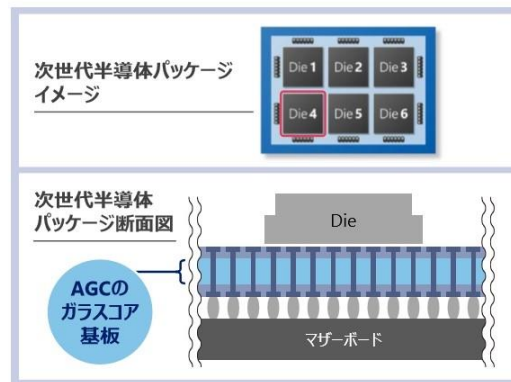
続きまして、赤外線カットフィルターです。

当社の光学関連部材の中での代表格が、赤外線カットフィルターになります。こちらの戦略についてご説明をいたします。下のほうで説明しておりますが、カメラに使われますイメージセンサーが受像する画像は、色合いが人間の目に見えるものと違います。それを人間の目が見ているように補正するのが、赤外線カットフィルターの役割になります。スマホをはじめとしまして、デジカメなど各種のカメラに使用されています。

戦略といたしましては、非常に要求レベルの高いお客様に対しまして、当社の技術力を武器にパートナーシップを構築することで新製品についての情報を得ること。またカメラユニットは、動画等も今増えてまいりまして、動画性能なども含めて高機能化が進みますので、それに合わせた技術提案による、さらなる高付加価値化の実現ということで売上を上げていっております。

半導体関連部材

次世代半導体パッケージ向け ガラスコア基板の開発を本格化



光学関連部材

AR/MRグラスなど高機能・高付加価値製品の提供



ADAS、自動運転の普及に必要な光学部材の提供



続きまして、新ビジネスへの取り組みの例になります。

まず、左側の半導体関連部材です。この分野では、今後さらに重要度が出るパッケージ分野での事業の探索に力を入れています。ここで紹介していますのは、将来のチップレットの基板への普及が期待されますガラスコア基板です。現在は樹脂が使われていますが、今後の次世代品ではそれがガラスに置き換わると言われています。

右側の光学関連製品では、新分野であります AR/MR 等の部材、また自動車の自動運転の普及、高性能化に伴う、そこに必要になってきます要求のある光学部材の探索に力を入れています。

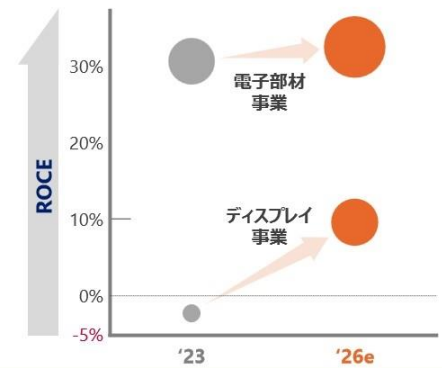
中長期的な業績イメージ

- ディスプレイは3施策により収益改善する一方で営業資産は縮小し、2026年までにROCE 10%達成を目指す
- 電子部材は半導体関連製品を中心に事業拡大を進め、2023年のROCE水準維持を目指す

売上高、営業利益



ROCE (円の直径: EBITDAの大きさ)



©AGC Inc. 23

続いて、目標についてご説明いたします。

昨年の売上は 3,120 億円、営業利益は 184 億円でした。今年の売上は 3,300 億円、営業利益は 330 億円、昨年と比べますと増収増益を見込んでいます。これを 2026 年には売上高 3,800 億円、営業利益 530 億円まで伸ばすことを計画しています。

ROCE につきましては、ディスプレイは先ほどご説明した施策の実行によりまして改善、一方で営業資産を縮小することから、2026 年には ROCE10%の達成を目標としています。

電子部材では、既に ROCE の高い事業ですが、この中計期間中に半導体関連製品を中心に ROCE を維持したまま事業拡大を進めていく目標を立てております。

以上で、電子事業につきましての説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

小川：鈴木さん、ありがとうございました。

[了]